

Do you Bury Your Face in the Water?

- Derek Prince

デレク・プリンス 教への遺産アーカイブ

学びの書簡シリーズ

あなたは水の中に顔をつけますか？

あなたは水の中に顔をつけますか？

最近、イザヤ 55:8-9 節の主のことばが深く胸に響きました。

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。—主の御告げ—
天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」

神の道と私たちの道には、大きな隔たりがあることについて思い巡らしているとき、私は士師記 6-8 章でギデオンとその軍について書かれていることを思い出さずにはいられませんでした。

当時、イスラエルは罪と姦淫の中へと墮落し、さばきとして、神はミデヤン人の大軍が彼らの土地を毎年襲い、収穫を奪うことを許されました。ある日、ギデオンがミデヤン人から隠れて、酒ぶねの中で人知れず麦を打っていると、主の使いが彼に現れ、「勇士よ。主があなたといっしょにおられる」と言いました(士師記 6:11-12)。明らかに、主はギデオンが自分自身をどう見ているのかとは、まったく別の見方をしておられました。ギデオンは、自分は若くて弱く、取るに足りない者だと思っていました。しかし、主は、「勇士よ」とギデオンを呼んだのです。

私たちは、どのように自分自身を見るかということよりも、神がどのように私たちを見てくださっているかに目を留めなければなりません。キリストにあって、私たち一人ひとは、「真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人」(エペソ 4:24)なのです。そのように自分自身を見ることは、必ず私たちの生き方に影響を与えます。

そして、主はギデオンにミデヤン人との戦いにおいて、イスラエルを率いるようにと命じました。その命令に従い、ギデオンはハロデの泉に陣を敷き、ミデヤン人は北に陣を敷いていました。

両陣営の人数を見てみましょう。

ギデオンの陣営 32,000 人¹

ミデヤン人の陣営 135,000 人²

このように、32,000 人のギデオンの陣は、4 倍以上も多い 135,000 人のミデヤンの陣に立ち向かいました。主がギデオンに、「あなたといっしょにいる民は多すぎる…」(士師記 7:2)と言ったとき、ギデオンはどう思ったでしょう。

神は、恐れ、おののく者をみな帰らせるように、とギデオンに指示しました。その結果、22,000 人が帰って行き、ギデオンには、10,000 人だけが残されました。この時点で、ミデヤン人の 13 分の 1 以下です。しかし、それで終わりではありませんでした。驚くことに、神はギデオンに、「民はまだ多すぎる」と言われたのです。そして、神はギデオンに、彼らを水のところに連れて下り、水の飲み方で彼らをためすと言われました。両ひざをつけて飲んだ者たちはすべて除外されました。ただ、犬のように水をなめた者たちだけがそのテストに合格したのです(士師記 7:4-7)。

重要な一つの条件

そのテストは、「警戒」という性質にフォーカスされました。

まず、通常の方法で水を飲んだ人々のことを思い浮かべてください。左手に持っていた盾と右手に持っていた槍、あるいは剣を横に置いて、両ひざをつけて水の中に顔をつけました。この姿勢では、彼らは不意の攻撃に対して完全にお手上げです。彼らは敵が近づいていることにも気づかず、武器を使う準備もできていません。準備ができた時には、敵はすでに彼らを打ち負かしているでしょう。

犬のように水をなめた人々についてはどうでしょうか。犬は水を飲むとき、鼻を水の中には付けず、舌を伸ばして口の中へ水をぺろぺろとなめて入れるので、通常、水はあちこちに飛び跳ねます。

では、水をなめた者たちはどのような姿勢だったのでしょうか。彼らは片ひざだけをつき、左腕の盾と右手の槍、あるいは剣はからだから離してはいません。そして、片手の手のひらに水をすくい、口に運びました。そのように、彼らは警戒し続け、いかなる不意打ちにも常に目を見張っていました。盾は準備万端の状態で、すぐにも槍や剣を使うことができました。敵が彼らを突然襲うことは不可能でした。

その 300 人の者たちは、二つ目のテストに合格しました。彼らは 135,000 人もミデヤン人に立ち向かいました。自分たちの 450 倍もの人数に、です！

帰るように言われた人々の中には、こう考えていた人もあったでしょう。「私たちをあの中から助けてくださった神に感謝だ。あのギデオンは気が狂っているに違いないよ。いったい、水の飲み方で何が変わるって言うんだい？ あいつと一緒に残った馬鹿な奴らとあいつに何が起こるか見ものだな。」

もちろん、結果はギデオンとその 300 人はミデヤン人を完全な混乱の中に陥れることに成功しました。その後、背後に集められた他のイスラエル人たちがミデヤン人を完全に打ち負かしました。

数では明らかに少人数です。最初の突破口を開く資質があったのは、300 人でした。しかし、いったん突破口が開かれると、逃げるミデヤン人を追撃したいと志願した何千人ものイスラエル人がいたのです。

この記録全体が、神の道と私たちの道がどれほど異なっているかを鮮やかに映し出しています。ギデオン自身、「私とともにいる民はわずかだ。もっと多くの人数が必要だ」と考えていたに違いないでしょう。しかし、神の考え方は全く逆でした。「あなたといっしょにいる民は多すぎる。」最終的に、ギデオンには自分と最初にいた人数の 100 分の 1 以下、つまり 1% 以下の人が残されただけでした。神にとって重要なことは、「人数の多さ」ではなく、「どのような人々であるか」なのです。

個人の吟味

この記録に照らし合わせてみると、私たちは一人ひとり自分を吟味してみる必要があります。神が今、ギデオンのような陣営を招集するとしたなら、自分は適任とされた少数派の一人なのか。それとも、恐れて帰った最初の 22,000 人のようなのか。もしくは、武器を脇に置いて、水を飲むために顔を水の中に付けた 10,000 人のようなのか。

日常生活の中で「自分の顔を水につける」ことは簡単であるし、ごく普通のことでしょう。日々直面するあらゆる実際的な必要で頭が一杯になってしまい、油断している私たちを捕らえる機会を絶えず狙っている、暗闇の見えない力との霊的戦いの中に自分がいることを忘れてしまいがちになります。

どんな状況においても絶えず警戒し続けることは、意識的な個人の訓練が必要とされます。それは、通常のクリスチャンの行ないや道徳的な概念のすべてを超えるものです。そうではあっても、新約聖書は私たちに明確な警告を与えています。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」(I ペテロ 5:8)。もし、この警告を無視するなら、私たちはサタンの巧妙で予測不能な攻撃に遭いやすくなってしまいます。

例えば、休暇を取ることを考えてみましょう。妻と私は、時に休暇を取って神を待ち望む時間を持たない限り、奉仕を効果的に続けることはできないと気づきました。しかし、私は一つのことを学びました。サタンは決して休暇を取らないことです。本当に休養が必要だと私たちが感じる時にこそ、サタンは私たちにまったく予期しないプレッシャーをかけ、すぐに武器が使えない状態で簡単にサタンにとらえられるかもしれません。

それは、私たちが休暇を取るべきでないことを意味しているわけではありません。そうではなく、休暇の時にも、私たちは顔を水につけず、武器を脇に置かないことです。妻と私は、休暇の時こそ、最も警戒が必要な時であると知ったのです。

しかし、休暇は単なる一例にすぎず、家族関係、職場において、また特別なお祝いの時や、教育の機会など、様々な領域においてそのことは当てはまります。私たちはそのようなことのすべてに参加することができますが、どのような時にも、自分の顔を水につけるような油断をしてはなりません。

ギデオンの陣営を思い出してください。適任者は 1%未満の人だけでした。その割合は今日も変わってはいないのではないのでしょうか。